

(15 : 39~15 : 47)

プロジェクト5 IgG4関連疾患の疾患感受性遺伝子の解析

(プロジェクトリーダー：川 茂幸)

全ゲノム網羅的 SNP を用いた自己免疫性膵炎の感受性遺伝子の解析 (研究分担者：川 茂幸)

○ 川 茂幸、大田正穂、伊藤哲也、浜野英明、目黒 明、猪子英俊

(信州大学健康安全センター、法医学教室、消化器内科学教室、医療情報部、東海大学医学部
分子生命科学教室)

(15 : 47~15 : 55)

プロジェクト6 ゲノム解析の手法を用いた疾患関連遺伝子の探索

(プロジェクトリーダー：松田文彦)

「IgG4 関連疾患・自己免疫性膵炎における疾患関連遺伝子の解析」に関わる現在の進捗状況

岡崎和一、○内田一茂 (研究班事務局)

(15 : 55~16 : 03)

プロジェクト7 プロテオミクス解析による新規診断マーカーの開発

(プロジェクトリーダー：坪内博仁)

プロテオミクス解析による自己免疫性膵炎診断マーカーの探索 (研究分担者：坪内博仁)

坪内博仁、○嵯山敏男、宇都浩文、前田拓郎、高見陽一郎、岩下祐司、船川慶太、井戸章雄
(鹿児島大学医歯学総合研究科健康科学専攻 消化器疾患生活習慣病学)

(16 : 03~16 : 11)

プロジェクト8 IgG4における自然免疫系と獲得免疫系の関係に関する研究

(プロジェクトリーダー：千葉 勉)

自然免疫シグナルによる IgG4 産生の分子機序 (研究分担者：千葉 勉)

千葉 勉、○渡邊智裕 (京都大学消化器内科学講座)

(16 : 11～16 : 27)

プロジェクト9 IgG4関連疾患における標的抗原と免疫制御に関する研究

(プロジェクトリーダー：岡崎和一)

1) 全身諸臓器にみられる IgG4 関連疾患と CD163 陽性マクロファージの関連

(研究協力者：能登原憲司)

○能登原憲司 (倉敷中央病院病理検査科)

2) 自己免疫性膵炎における LPSP と IDCP の免疫学的相違

(研究分担者：岡崎和一)

岡崎和一、○内田一茂、楠田武生、福井由理、吉田勝紀、坂口雄沢、福井寿朗、西尾彰功

(関西医科大学内科学第三講座)

(16 : 27～16 : 50)

総合討論

線維硬化性疾患としての「IgG4関連全身疾患の概念と診断基準試案」の作成

事務局連絡

閉会の挨拶

(17 : 00 終了予定)

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業補助金

IgG4 関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究

平成 22 年度第 2 回総会プログラム

研究代表者 岡崎 和一 (関西医科大学内科学第三講座)

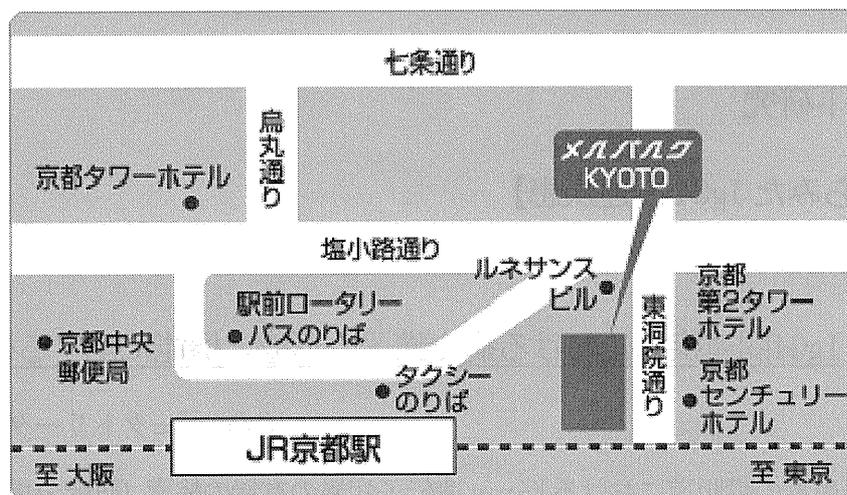
期日 平成 23 年 2 月 1 日 (火) 13:00~17:00

場所 メルパルク京都 5 階 会議室 A

(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13 / TEL 075-352-7444)

<演題発表について>

1. 発表は 5 分、討論 3 分 (計 8 分) でお願ひ致します。
2. CD-R か USB メモリのいずれかで発表データをご持参いただき、スライド受付にご提出下さい。
PC は Windows を用意します。Macintosh の対応はいたしません。
3. 厚生労働省への報告の必要上、発表スライドファイルを当日複製させていただきますことをご了承下さい。不都合のある先生は、事前に事務局までご連絡ください。
4. 当日、資料を配布される場合は 50 部程度ご用意下さい。



各線京都烏丸中央口より徒歩 2 分

事務局 関西医科大学 内科学第三講座

担当 内田 一茂

TEL : 072-804-2757

FAX : 072-804-2061

E-mail : igg4@hirakata.kmu.ac.jp

(13 : 00)

開会

(敬称略)

(13 : 00～13 : 15)

I. 研究代表者挨拶・研究の進め方

研究代表者：岡崎和一

(13 : 15～13 : 25)

II. 共同プロジェクト

1) IgG4 関連疾患疾患についての前向き臨床研究

岡崎和一、○内田一茂 (研究班事務局)

2) IgG4 関連疾患疾患についての全国調査

岡崎和一、○内田一茂 (研究班事務局)

3) 岡崎班・梅原班合同 WG 作成の「IgG4 関連疾患の包括診断基準」について

○岡崎和一

III. プロジェクト研究

【肝胆膵病変からみた IgG4 関連疾患】

(13 : 25～14 : 29)

プロジェクト1 IgG4関連疾患における病変臓器の形態と機能に関する研究

(プロジェクトリーダー：神澤輝実)

1) 自己免疫性膵炎患者の膵胆道における K-ras 遺伝子変異の有無の検索 (研究分担者：神澤輝実)

○ 神澤輝実、宅間健介、田畑拓久、稲葉良彦、江川直人 (都立駒込病院 内科)

2) 自己免疫性膵炎の診断における EUS-FNA の有用性 (研究分担者：下瀬川 徹)

下瀬川 徹、○菅野 敦 (東北大学大学院 消化器病態学)

3) IgG4 関連硬化性胆管炎診断における肝生検の有用性 (研究協力者：大原弘隆)

○大原弘隆、中沢貴宏、内藤 格、安藤朝章、林 香月、宮部勝之、城 卓志

(名古屋市立大学大学院 地域医療教育学、消化器・代謝内科学)

- 4) 耐糖能からみた自己免疫性膵炎の長期予後の検討 (研究協力者：平野賢二)
 ○平野賢二 (東京大学医学部附属病院 消化器内科)
- 5) 機能及び組織からみた1型および2型自己免疫性膵炎の病態 (研究協力者：水野伸匡、洪 繁)
 ○水野伸匡、山雄健次、洪 繁、後藤秀実
 (愛知県がんセンター中央病院 消化器内科、名古屋大学医学部附属病院 消化器内科)
- 6) IgG4関連全身硬化性疾患におけるステロイド治療抵抗例(再燃例)の検討 (研究協力者：乾 和郎)
 ○乾 和郎、芳野純治、三好広尚、山本智支、松浦弘尚、鳥井淑敬
 (藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科)
- 7) IgG4 関連全身硬化性疾患の臨床像の検討 (研究協力者：西野隆義)
 ○西野隆義 (東京女子医科大学 八千代医療センター 消化器内科)
- 8) IgG4関連疾患の病態と推移—自験例とALYマウスからみた検討— (研究協力者：吉田 仁)
 ○吉田 仁、佐藤悦基、田中滋城、岩田朋之、野本朋宏、山崎貴久、湯川明浩、本間 直、
 北村勝哉、今村綱男、池上覚俊、井廻道夫
 (昭和大学医学部 内科学講座消化器内科学部門、東京有明医療大学保険医療学部)

【その他の臓器(消化管、内分泌、呼吸器)病変からみたIgG4関連疾患】

(14:29~14:53)

プロジェクト3 IgG4関連疾患における臓器相関関連因子に関する研究

(プロジェクトリーダー：日比紀文)

- 1) 大腸炎における自己免疫機序の検討 (研究分担者：日比紀文)
 日比紀文、○佐伯恵太、松岡克善、高山哲朗、米野和明、島村克好、金井隆典
 (慶應義塾大学医学部 消化器内科)
- 2) IgG4 関連疾患と内分泌異常 (研究協力者：島津 章)
 ○島津 章、難波多挙、田上哲也、成瀬光栄
 (国立病院機構 京都医療センター 臨床研究センター、内分泌代謝内科)
- 3) IgG4関連間質性肺炎についての検討
 谷澤公伸、半田知宏、渡辺創、相原顕作、田口善夫、野間恵之、小橋陽一郎、久保武、
 長井苑子、陳和夫、三森経世、三嶋理晃

(京都大学医学部附属病院 呼吸器内科、リハビリテーション部、放射線診断部、
呼吸管理睡眠制御学講座、免疫・膠原病内科、天理よろづ相談所病院 呼吸器内科、
放射線科、医学研究所・病理診断部、京都健康管理研究会中央診療所/臨床研究センター)

コーヒーブレイク (14 : 53~15 : 15)

【唾液腺・涙腺病変からみた IgG4 関連疾患】

(15 : 15~15 : 31)

プロジェクト2 Mikulicz病・IgG4関連疾患の免疫学的解析

(プロジェクトリーダー：梅原久範)

1) ミクリッツ病/IgG4 関連疾患の病態形成におけるサイトカイン・ケモカイン・

ケモカインレセプターの関与

(研究協力者：中村誠司)

中村誠司、○森山雅文、田中昭彦、前原隆 (九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座)

2) IgG4包括診断基準に対するIgG4+MOLPSからの提案

(研究分担者：梅原久範)

○梅原久範 (金沢医科大学 血液免疫制御学)

【病因病態解明のための遺伝子、免疫学的解析】

(15 : 31~15 : 39)

プロジェクト4 接着制御分子破綻による自己免疫発症の機構

(プロジェクトリーダー：木梨達雄)

IgG4 関連全身硬化性疾患患者における RASSF5C、MST1 遺伝子のメチル化解析

(研究分担者：木梨達雄)

木梨達雄、○富山尚、植田祥啓、安田鐘樹 (関西医科大学 分子遺伝学講座)

(15 : 39~15 : 47)

プロジェクト5 IgG4関連疾患の疾患感受性遺伝子の解析

(プロジェクトリーダー：川 茂幸)

全ゲノム網羅的 SNP を用いた自己免疫性膵炎の感受性遺伝子の解析 (研究分担者：川 茂幸)

川 茂幸、○大田正穂、伊藤哲也、浜野英明、目黒 明、猪子英俊

(信州大学健康安全センター、法医学教室、消化器内科学教室、医療情報部、東海大学医学部
分子生命科学教室)

(15 : 47~15 : 55)

プロジェクト6 ゲノム解析の手法を用いた疾患関連遺伝子の探索

(プロジェクトリーダー：松田文彦)

「IgG4 関連疾患・自己免疫性膵炎における疾患関連遺伝子の解析」に関わる現在の進捗状況

岡崎和一、○内田一茂 (研究班事務局)

(15 : 55~16 : 03)

プロジェクト7 プロテオミクス解析による新規診断マーカーの開発

(プロジェクトリーダー：坪内博仁)

プロテオミクス解析による自己免疫性膵炎診断マーカーの探索 (研究分担者：坪内博仁)

坪内博仁、○嵯山敏男、宇都浩文、前田拓郎、船川慶太、井戸章雄

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 消化器疾患・生活習慣病学)

(16 : 03~16 : 11)

プロジェクト8 IgG4における自然免疫系と獲得免疫系の関係に関する研究

(プロジェクトリーダー：千葉 勉)

IgG4 産生に関わる自然免疫反応の解明 (研究分担者：千葉 勉)

千葉 勉、○渡邊智裕 (京都大学 消化器内科学講座)

(16 : 11～16 : 27)

プロジェクト9 IgG4関連疾患における標的抗原と免疫制御に関する研究

(プロジェクトリーダー：岡崎和一)

悪性腫瘍（膵癌、胆管癌）における IgG4 陽性形質細胞および CD163 陽性マクロファージの検討

(研究協力者：能登原憲司)

○能登原憲司（倉敷中央病院 病理検査科）

2) 自己免疫性膵炎における LPSP と IDCP の免疫学的相違 (研究分担者：岡崎和一)

岡崎和一、○内田一茂、楠田武生、福井由理、吉田勝紀、坂口雄沢、福井寿朗、西尾彰功

(関西医科大学 内科学第三講座)

IV. (16 : 27～16 : 50)

総合討論

事務局連絡

閉会の挨拶

(17 : 00 終了予定)

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業補助金

IgG4 関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究

平成 23 年度第 1 回総会プログラム

研究代表者 岡崎 和一 (関西医科大学 内科学第三講座)

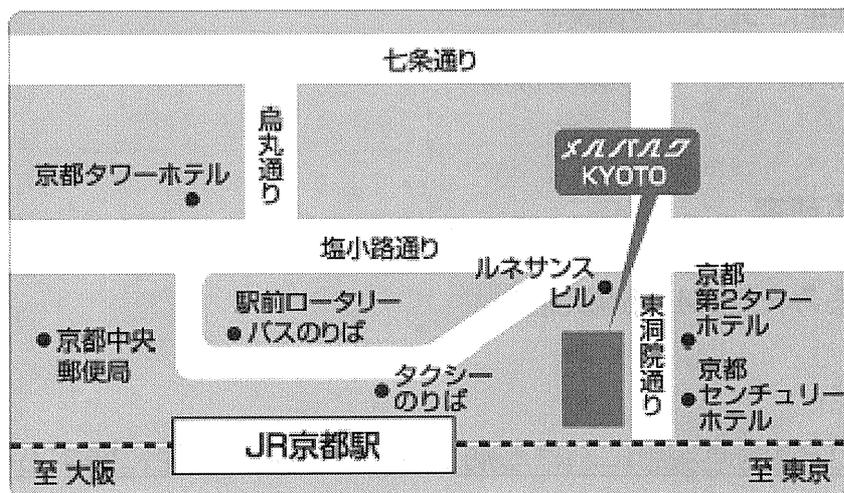
期日 平成 23 年 8 月 2 日 (火) 13:00~17:00

場所 メルパルク京都 5 階 会議室 A

(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13 Tel. 075-352-7444)

<演題発表について>

1. 発表は 4 分、討論 3 分 (計 7 分) をお願い致します。
2. CD-RかUSBメモリのいずれかで発表データをご持参いただき、スライド受付にご提出下さい。
PCはWindowsを用意します。PowerPoint 2007で保存をお願いします。Macintoshの対応はいたしません。
3. 厚生労働省への報告の必要上、発表スライドファイルを当日複製させていただきますことをご了承下さい。不都合のある先生は、事前に事務局までご連絡ください。
4. 当日、資料を配布される場合は 50 部程度ご用意下さい。



各線京都烏丸中央口より徒歩 2 分

事務局 関西医科大学 内科学第三講座

担当 内田 一茂

TEL : 072-804-2757

FAX : 072-804-2061

E-mail : igg4@hirakata.kmu.ac.jp

(13 : 00)

開会

(敬称略)

(13 : 00～13 : 15)

I. 国立保健医療科学院健康危機管理研究部 武村真治先生御挨拶

II. 研究代表者挨拶・研究の進め方

研究代表者：岡崎和一

(13 : 15～13 : 30)

III. 共同プロジェクト

1) IgG4 関連硬化性胆管炎臨床診断基準作成についての報告

○大原弘隆 (IgG4 関連硬化性胆管炎診断基準WG 委員長)

2) IgG4 関連疾患疾患についての前向き臨床研究

岡崎和一、○内田一茂 (研究班事務局)

3) IgG4 関連疾患疾患についての全国調査

岡崎和一、○内田一茂 (研究班事務局)

IV. プロジェクト研究

【肝胆膵病変からみた IgG4 関連疾患】

(13 : 30～14 : 26)

プロジェクト1 IgG4関連疾患における病変臓器の形態と機能に関する研究

(プロジェクトリーダー：神澤輝実)

1) 自己免疫性膵炎患者の胃、大腸、主乳頭における K-ras 遺伝子変異の検索

(研究分担者：神澤輝実)

○神澤輝実、田畑拓久、原 精一、宅間健介、来間佐和子、稲葉良彦、江川直人

(東京都立駒込病院 内科)

2) EUS-FNA による自己免疫性膵炎の診断能の検討

(研究分担者：下瀬川 徹)

下瀬川 徹、○菅野 敦 (東北大学大学院 消化器病態学)

- 3) 自己免疫性膵炎再燃例の特徴及び IgG4 値の意義 (研究協力者：伊藤鉄英)
伊藤鉄英、○藤森 尚、五十嵐久人 (九州大学病態制御内科膵臓研究室)
- 4) IgG4 関連硬化性胆管炎および原発性硬化性胆管炎における血清 IgG4, IgE の臨床的意義の
再検討 (研究協力者：平野賢二)
○平野賢二 (東京大学大学院医学系研究科 消化器内科学)
- 5) 自己免疫性膵炎における膵内胆管狭窄の検討—膵炎波及か？壁肥厚か？—
(研究協力者：長谷部 修)
○長谷部 修 (長野市民病院 消化器内科)
- 6) 自己免疫性膵炎の診断における閉塞性静脈炎の特徴と定義 (研究協力者：中沢貴宏)
中沢貴宏、○宮部勝之、能登原憲司、内藤 格、林 香月、奥村文浩、大原弘隆
(名古屋市立大学 大学院 消化器・代謝内科、倉敷中央病院 病理検査科、名古屋市立大学
大学院 地域医療教育学)
- 7) IgG4 関連疾患の PSL 治療効果の検討 (研究協力者：西野隆義)
○西野隆義 (東京女子医科大学 八千代医療センター 消化器内科)
- 8) マウスにおける IgG4 関連疾患の研究—ALY マウスでの研究成果と展望 (研究協力者：吉田 仁)
○吉田 仁、佐藤悦基、岩田朋之、野本朋宏、山崎貴久、湯川明浩、本間 直、北村勝哉、
今村綱男、池上寛俊、田中滋城、井廻道夫 (昭和大学 医学部 内科学講座消化器内科学部門)

【その他の臓器 (消化管、内分泌、呼吸器) 病変からみた IgG4 関連疾患】

(14 : 26~14 : 54)

プロジェクト3 IgG4 関連疾患における臓器相関関連因子に関する研究

(プロジェクトリーダー：日比紀文)

- 1) 自己免疫性膵炎における IgG4 輸送メカニズム (研究分担者：日比紀文)
日比紀文、○佐伯恵太、金井隆典、土井知光、中村雄二、海老沼浩利、朴沢重成
(慶應義塾大学医学部消化器内科)
- 2) IgG4 関連疾患と内分泌機能障害 (研究協力者：島津 章)
○島津 章、難波多挙、田上哲也、臼井 健、成瀬光栄
(国立病院機構京都医療センター臨床研究センター、内分泌・代謝内科)
- 3) 自己免疫性膵炎に合併した気管支喘息の臨床的検討 (研究協力者：洪 繁)
○洪 繁、伊藤 理、長谷川好規、
(名古屋大学消化器内科、名古屋大学呼吸器内科)

4) IgG4 関連間質性肺炎についての検討

(研究協力者：三嶋理晃)

○半田知宏、谷澤公伸、相原顕作、池添浩平、田口善夫、野間恵之、小橋陽一郎、
久保武、長井苑子、陳和夫、三森経世、三嶋理晃

(京都大学医学部附属病院呼吸器内科、同 リハビリテーション部、天理よろづ相談所病院
呼吸器内科、同 放射線科、同 医学研究所・病理診断部、京都大学医学部附属病院放射線
診断部、京都健康管理研究会中央診療所/臨床研究センター、京都大学医学部附属病院呼吸管
理睡眠制御学講座、同 免疫・膠原病内科)

コーヒーブレイク (14 : 54~15 : 15)

【唾液腺・涙腺病変からみた IgG4 関連疾患】

(15 : 15~15 : 29)

プロジェクト2 Mikulicz病・IgG4関連疾患の免疫学的解析

(プロジェクトリーダー：梅原久範)

1) ミクリッツ病/IgG4 関連疾患の病態形成におけるサイトカイン・ケモカイン・

ケモカインレセプターの関与

(研究協力者：中村誠司)

中村誠司、○森山雅文、田中昭彦、前原隆

(九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座)

2) IgG4関連疾患の病因関連遺伝子、関連蛋白の梅原班における解析

(研究分担者：梅原久範)

○梅原久範 (金沢医科大学 血液免疫制御学)

【病因病態解明のための遺伝子、免疫学的解析】

(15 : 29~15 : 36)

プロジェクト4 接着制御分子破綻による自己免疫発症の機構

(プロジェクトリーダー：木梨達雄)

IgG4 関連全身硬化性疾患患者における RASSF5C、MST1 遺伝子のメチル化解析

(研究分担者：木梨達雄)

木梨達雄、○富山 尚、植田 祥啓、安田 鐘樹 (関西医科大学分子遺伝学講座)

(15 : 36~15 : 43)

プロジェクト5 IgG4関連疾患の疾患感受性遺伝子の解析

(プロジェクトリーダー：川 茂幸)

全ゲノム網羅的 SNP を用いた自己免疫性膵炎の感受性遺伝子の解析

(研究分担者：川 茂幸、研究協力者：太田正穂)

○太田正穂、川 茂幸、伊藤哲也、浜野英明、目黒 明、猪子英俊

(信州大学法医学教室、健康安全センター、消化器内科学教室、医療情報部、東海大学医学部
分子生命科学教室)

(15 : 43~15 : 50)

プロジェクト6 ゲノム解析の手法を用いた疾患関連遺伝子の探索

(プロジェクトリーダー：松田文彦)

統合オミックス解析による IgG4 関連全身硬化性疾患の原因究明 (研究分担者：松田文彦)

○松田文彦 (京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター)

(15 : 50~15 : 57)

プロジェクト7 プロテオミクス解析による新規診断マーカーの開発

(プロジェクトリーダー：坪内博仁)

プロテオミクス解析による自己免疫性膵炎診断マーカーの探索 (研究分担者：坪内博仁)

坪内博仁、○嵯山敏男、宇都浩文、橋元慎一、前田拓郎、岩下祐司、船川慶太、井戸章雄

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 消化器疾患・生活習慣病学)

(15 : 57~16 : 04)

プロジェクト8 IgG4における自然免疫系と獲得免疫系の関係に関する研究

(プロジェクトリーダー：千葉 勉)

Basophil 活性化による IgG4 産生 (研究分担者：千葉 勉)

千葉 勉、○渡邊智裕 (京都大学 消化器内科学講座)

(16 : 04～16 : 18)

プロジェクト9 IgG4関連疾患における標的抗原と免疫制御に関する研究

(プロジェクトリーダー：岡崎和一)

1) 自己免疫性膵炎における細胞外基質の検討 (研究協力者：能登原憲司)

○能登原憲司 (倉敷中央病院病理検査科)

2) IgG4 関連疾患における ICOS 陽性制御性 T 細胞の役割 (研究代表者：岡崎和一)

岡崎和一、○内田一茂、楠田武生、住本貴美、福井由理、吉田勝紀、坂口雄沢、福井寿朗、
西尾彰功 (関西医科大学内科学第三講座)

(16 : 18～16 : 50)

総合討論

事務局連絡

閉会の挨拶

(17 : 00 終了予定)

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 研究奨励分野

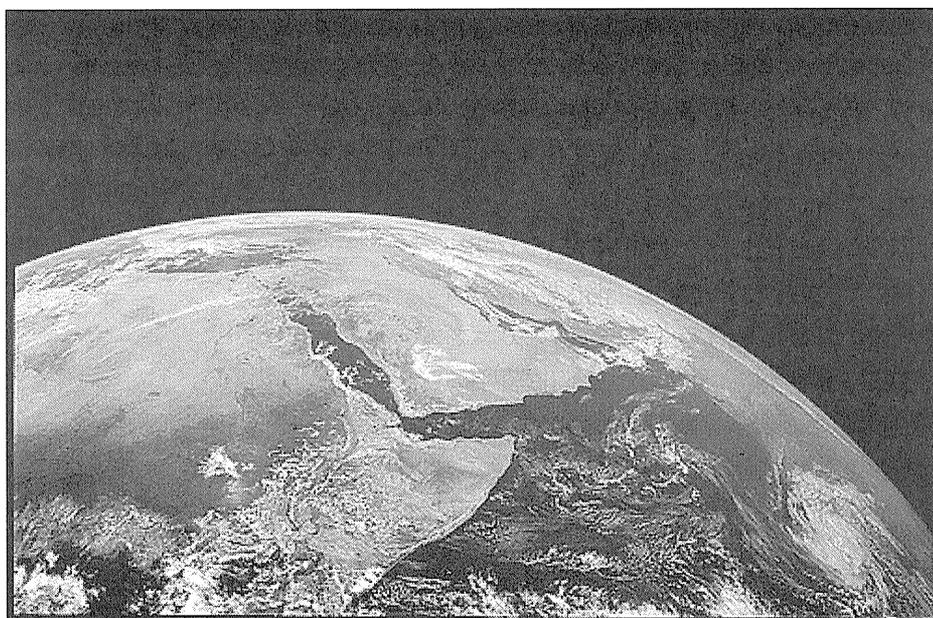
「IgG4 関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究（岡崎班）」

「新規疾患、IgG4 関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS) の確立のための研究（梅原班）」

合同 IgG4 班会議 (IgG4 All Japan)

プログラム・講演抄録集

今、日本から世界に向けての発信！



日時：2012年2月18日（土） 10：30～17：00

会場：メルパルク京都 5階 会議室A

京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676-13

TEL 075-352-7444

岡崎班事務局：関西医科大学 内科学第三講座

TEL：072-804-2757, FAX：072-804-2061

E-mail：igg4@hirakata.kmu.ac.jp

梅原班事務局：金沢医科大学 血液免疫内科学

TEL：076-218-8158, FAX：076-286-9290

e-mail：igg4@kanazawa-med.ac.jp

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 研究奨励分野
IgG4 合同班会議

プログラム

10時30分 開会の挨拶

【セッション1】 IgG4 関連疾患の進展（発表10分, 討論5分）

- 1) IgG4 関連疾患包括診断基準 2011
梅原 久範（金沢医科大学血液免疫内科学）
- 2) ポストン IgG4 関連疾患国際シンポジウムの報告
岡崎 和一（関西医科大学内科学第三講座）

11時00分

【セッション2】 IgG4 関連消化器病変（発表10分, 討論5分）

- 1) 自己免疫性膵炎患者の膵胆道・消化管における K-ras 遺伝子変異の有無の検索
神澤 輝実（都立駒込病院 内科）
- 2) 自己免疫性膵炎の診断における EUS-FNA の有用性
下瀬川 徹（東北大学大学院 消化器病態学）
- 3) 自己免疫性膵炎における IgG4 産生と輸送メカニズム
日比 紀文（慶應義塾大学医学部消化器内科）
- 4) IgG4 関連硬化性胆管炎臨床診断基準について
大原 弘隆（名古屋市大 総合内科）

12時00分 昼食

13時00分

【アナウンス：IgG4 研究班の今後の取り組みについて】

- 梅原 久範（金沢医科大学血液免疫内科学）
岡崎 和一（関西医科大学内科学第三講座）

13時30分

【セッション3】 IgG4 関連腎臓病（発表10分, 討論5分）

- 1) IgG4 関連疾患の腎病変 Up to Date
佐伯 敬子（長岡赤十字病院 内科）
- 2) IgG4 関連腎臓病の診断基準
川野 充弘（金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科）

14時00分

【セッション4】 IgG4 関連ミクリッツ病・眼病変・呼吸器疾患（発表10分，討論5分）

- 1) 「IgG4 関連涙腺・唾液腺炎の再燃時における血清 IgG4 推移と再燃様式の解析」
山本 元久（札幌医科大学医学部第一内科）
- 2) IgG4 関連眼部疾患 IgG4-related ophthalmic disease について
安積 淳（神戸大学医学部眼科）
- 3) IgG4 関連呼吸器疾患後方視調査の経過報告
松井 祥子（富山大学保健管理センター）

14時45分 コーヒーブレイク

15時00分

【セッション5】 IgG4 関連疾患の病理解析（発表10分，討論5分）

- 1) 自己免疫性膵炎における細胞外基質の検討
能登原 憲司（倉敷中央病院病理検査科）
- 2) IgG4 関連疾患の病理―鑑別診断を中心に―
佐藤 康晴（岡山大学大学院病態制御学腫瘍制御学病理学）

15時30分

【セッション6】 IgG4 関連疾患の病態解析・治療研究（発表10分，討論5分）

- 1) IgG4 関連ミクリッツ病の病態形成におけるサイトカインの関与
中村 誠司、森山 雅文（九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座）
- 2) IgG4 関連疾患の前方視治療研究
正木 康史（金沢医科大学血液免疫内科）

16時00分

【セッション7】 IgG4 関連疾患の基礎的研究（発表10分，討論5分）

- 1) IgG4 関連疾患の網羅的遺伝子発現解析
石垣 靖人（金沢医科大学生命科学研究領域）
- 2) 全ゲノム網羅的 SNP を用いた自己免疫性膵炎の感受性遺伝子の解析
太田 正穂、川 茂幸（信州大学法医学教室、健康安全センター）
- 3) プロテオミクス解析による自己免疫性膵炎診断マーカーの探索
坪内 博仁（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 消化器疾患・生活習慣病学）
- 4) IgG4 関連疾患に関わる自然免疫反応の解明
千葉 勉、渡邊 智裕（京都大学 消化器内科学講座）

17時00分 閉会

「IgG4 関連疾患包括診断基準 2011」

「IgG4 関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究」班

「新規疾患, IgG4 関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS) の確立のための研究」班

合同ワーキンググループ

梅原久範¹⁾、岡崎和一²⁾、川茂幸³⁾、神澤輝実⁴⁾、下瀬川徹⁵⁾、中村誠司⁶⁾、島津 章⁷⁾、伊藤鉄英⁸⁾、能登原憲司⁹⁾、正木康史¹⁾、川野充弘¹⁰⁾、佐伯敬子¹¹⁾、松井祥子¹²⁾、吉野正¹³⁾、中村栄男¹⁴⁾、小島勝¹⁵⁾、山本元久¹⁶⁾、浜野英明¹⁷⁾

¹金沢医科大学血液免疫内科学、²関西医科大学内科学第三講座、³信州大学総合健康安全センター、⁴都立駒込病院内科、⁵東北大学消化器病態学分野、⁶九州大学口腔顎顔面病態学講座、⁷国立京都医療センター臨床研究センター、⁸九州大学病態制御内科学、⁹倉敷中央病院病理検査科、¹⁰金沢大学リウマチ・膠原病内科、¹¹長岡赤十字病院内科、¹²富山大学保健管理センター、¹³岡山大学腫瘍制御学病理学、¹⁴名古屋大学病理組織医学、¹⁵獨協医科大学病理学形態、¹⁶札幌医科大学第1内科、¹⁷信州大学医学部消化器内科

IgG4 関連疾患(IgG4-related disease: IgG4-RD)は、血清 IgG4 高値と病変部への著明な IgG4 陽性形質細胞浸潤を特徴とする 21 世紀に生まれた新たな疾患概念である。IgG4 関連疾患は既存の種々の疾患や病態を含むが、血清 IgG4 高値かつ IgG4 陽性形質細胞の組織浸潤という共通する特徴を有し明らかに独立した疾患を形成する。両班合同で、①各臓器病変の専門医以外の臨床医でも使用できる、②各臓器の診断基準と整合性をもたせる、③出来る限り簡潔化する、④悪性腫瘍を除外するために病理組織所見を重視する、⑤ステロイドの診断的治療は推奨しないというコンセプトのもとに、「IgG4 関連疾患包括診断基準 (Comprehensive Diagnostic Criteria for IgG4-related disease (IgG4-RD), 2011)」を世界に先駆けて公表した。実際の適応においては、「IgG4 関連疾患包括診断基準」では、生検組織が得られない場合や病理結果が典型で無い場合には疑診となる。この欠点を補強するために、臓器別 IgG4 関連疾患診断基準が必要であるが、「IgG4-ミクリッツ病診断基準」と「IgG4-自己免疫性膵炎診断基準」に加え、新たに、腎臓学会との共同による「IgG4 関連腎症診断基準」が制定された。このように「IgG4 関連疾患包括診断基準」と「臓器別 IgG4 関連疾患診断基準」を上手に組み合わせることで、容易で且つ正確に IgG4 関連疾患を診断出来るようになった。まさに All Japan の成果と言える。

【臨床診断基準】

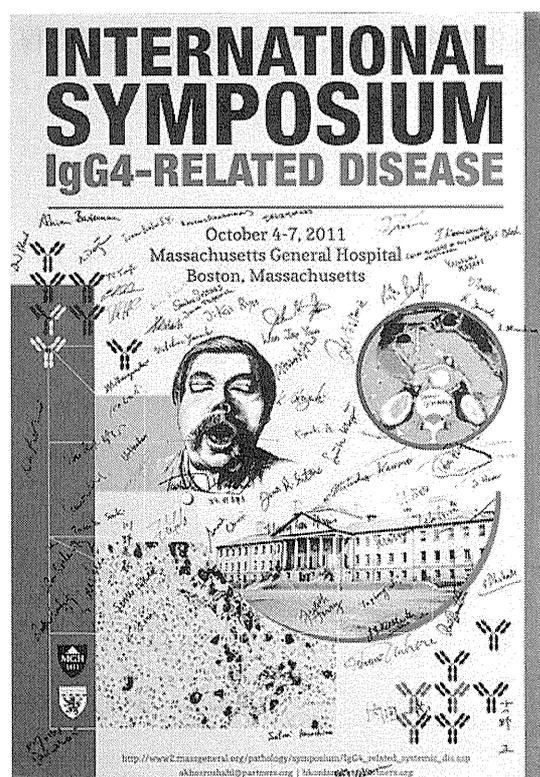
1. 臨床的に単一または複数臓器に特徴的なびまん性あるいは限局性腫大、腫瘤、結節、肥厚性病変を認める。
2. 血液学的に高 IgG4 血症 (135 mg/dl 以上) を認める。
3. 病理組織学的に以下の 2 つを認める。
 - ①組織所見：著明なリンパ球、形質細胞の浸潤と線維化を認める。
 - ②IgG4 陽性形質細胞浸潤：
IgG4/IgG 陽性細胞比 40% 以上、且つ IgG4 陽性形質細胞が 10/HPF を超える。

「ボストン IgG4 関連疾患国際シンポジウムの報告」

関西医科大学内科学第三講座（消化器肝臓内科）

岡崎 和一

わが国から発信された IgG4 の関連する新規疾患概念は、国際的にも注目を浴びつつあり、平成 23 年 10 月には世界各国（日本、アメリカ、韓国、中国（香港）、カナダ、イギリス、イタリア、ドイツ、フランス、ベルギー ほか）から 100 人余りの研究者（臨床系：消化器、リウマチ膠原病、血液、腎臓、眼科、呼吸器、基礎系：免疫、病理）が集い、ボストンにおいて国際シンポジウム（「International IgG4-RD symposium」）が開催された。本シンポジウムでは、わが国における厚生労働省研究班（岡崎班・梅原班）の取り組み状況と研究成果である包括診断基準を紹介した。また、この国際シンポジウムでは、両研究班による統一疾患名の「IgG4 関連疾患(IgG4-related disease)」が採用された。さらに各臓器病変の名称と診断に重要な臨床および病理組織所見についてそれぞれ熱い議論がなされ、まもなく公表される予定である。



「自己免疫性膵炎患者の膵胆道・消化管における K-ras 遺伝子変異の有無の検索」

都立駒込病院消化器内科

神澤 輝実、田畑 拓久、原 精一、来間 佐和子、千葉 和朗、小泉 理美

研究要旨：自己免疫性膵炎 8 例の切除ないし開腹生検した膵臓、9 例の切除した総胆管と胆嚢、8 例の切除ないし生検した主乳頭、5 例の切除した胃粘膜、3 例の生検した大腸粘膜と、切除した慢性膵炎 10 例の膵臓のパラフィン切片から膵管上皮、胆管上皮、胆嚢粘膜、主乳頭部、胃・大腸粘膜を microdissection し、K-ras 遺伝子変異の有無を検索した。また自己免疫性膵炎 3 例と慢性膵炎 20 例の純粋膵液中の K-ras 遺伝子変異も検索した。高度の K-ras 遺伝子変異を自己免疫性膵炎全 8 例の膵管上皮と 2 例の膵液中に認め、変異型は全て GAT であった。アルコール性慢性膵炎では、高度の K-ras 遺伝子変異を 4 例の切除膵と 2 例の膵液中に認めた。また、高度の K-ras 遺伝子変異を自己免疫性膵炎に合併した 5 例の硬化性胆管炎の総胆管上皮（GAT3 例、TGT1 例、GCT/TGT1 例）、4 例の胆嚢粘膜（GAT1 例、TGT1 例、GCT1 例、GTT1 例）、4 例の主乳頭（GAT3 例）、2 例の胃粘膜（AGT2 例）、2 例の大腸粘膜（GAT2 例）に認めた。多数の IgG4 陽性形質細胞や Foxp3 陽性細胞の浸潤を伴う炎症性線維性変化の強い例で、K-ras 遺伝子変異の程度が強い傾向を認めた。